

京 都 大 学
高 等 教 育 研 究

第 27 号

京都大学高等教育研究開発推進センター

2021

目 次

第一部 論 考

研究論文

- ミネルヴァ大学の正課教育における汎用的能力の育成—ミネルヴァ大学生へのインタビュー調査を通して—
田 中 孝 平 京都大学大学院教育学研究科/日本学術振興会特別研究員 DC
松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 1

実践報告

- コロナ環境下の遠隔授業に関する学生の意識および行動の「学生 IR」を用いた分析
市 村 光 之 横浜国立大学大学院教育強化推進センター…………… 13
- IR を活用できる大学・学校職員の能力開発プログラム—統合型 IR から分散型 IR へ—
岩 野 摩 耶 明星学苑教育支援室…………… 25
- プレ FD 科目のマイクロティーチング用ルーブリックの開発
長 沼 祥太郎 九州大学教育改革推進本部
鄭 漢 模 九州大学教育改革推進本部…………… 37

研究ノート

- 行政文書における入学前教育の変遷と考察
岡 田 航 平 京都大学大学院教育学研究科…………… 48
- 大学における冒険教育の教育的意義についての一考察—冒険教育研究の動向と展望—
松 尾 美 香 岡山理科大学教育推進機構
望 月 雅 光 創価大学経営学部
松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 57
- 2つの PBL の歴史的展開と学習プロセスのモデル
杉 山 芳 生 京都大学大学院教育学研究科・日本学術振興会特別研究員 DC …… 68

ショートレポート

- 大学経済学専門科目における「大人数アクティブ・ラーニング型授業」のオンライン化
—ビデオ記録に基づく省察の授業改善効果—
佐 藤 智 彦 東京慈恵会医科大学附属病院
三田地 真 実 星槎大学大学院教育学研究科
岡 田 徹太郎 香川大学経済学部…………… 80

センター教員・共同研究論考

教育におけるコンピテンシーとは何か—その本質的特徴と三重モデル—

松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 84

日本の大学における能力ベース教育の展開と課題—コロナ後への展望—

松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 109

コロナ禍の学生経験を把握するための調査設計に向けて—コロナ禍で行われた学生調査項目の整理を通じて—

中 西 勝 彦 京都大学高等教育研究開発推進センター

勝 間 理 沙 京都大学高等教育研究開発推進センター

佐 藤 万 知 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 117

第二部 記録

日誌・業績

高等教育研究開発推進センター日誌（2020年4月1日～2021年3月31日）…………… 130

高等教育研究開発推進センター組織（2020年4月1日～2021年3月31日）…………… 143

高等教育研究開発推進センター教員業績（2020年4月～2021年3月）…………… 145

『京都大学高等教育研究』規定

『京都大学高等教育研究』編集規程…………… 157

『京都大学高等教育研究』投稿規程…………… 157

『京都大学高等教育研究』編集規程

(2021年7月14日改正)

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センターが発行する研究誌である。発行形態は、オンラインジャーナル（電子ジャーナル）とする。
2. 本誌には、本センター関係教員の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動に関する記事等を編集掲載するほか、投稿論考、招待論文を掲載する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は学内、学外編集委員それぞれ若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規程に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論考の掲載ならびに論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

(附則) 本規程は、2021年発行の『京都大学高等教育研究』第27号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿規程

(2021年7月14日改正)

(全般)

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとする。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、ショートレポート、招待論文、センター教員・共同研究論考、その他に区分される。
 - ①研究論文：学問的な手続きに基づいて行われた、高等教育に関する獨創性・新規性のある研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考。
 - ②研究ノート：高等教育に関する特定のテーマについて、国内外の諸研究を広く検討し独自の観点から分析したものであり、高等教育研究への有益な資料となる論考。
 - ③実践報告：高等教育における事例の分析や実践の効果検証などを通じて、高等教育の新たな実践の展開に示唆を与える論考。
 - ④ショートレポート：高等教育に関する理論的・実践的な知見をまとめた短い論考。獨創性・新規性は必ずしも高くなくても、研究の方法と成果を明確に記述したもの。ただし、前年度の大学教育研究フォーラムでの発表内容を発展させたものであり、投稿できるのは第一発表者のみとする（連名は可）。
 - ⑤招待論文：編集委員会が寄稿を依頼して書かれた高等教育に関連する総説、動向の紹介等の論考。
 - ⑥センター教員・共同研究論考：センターの教員の論考もしくはセンターの共同研究に関わる論考。
 - ⑦その他：その他、以上の区分には該当しないが、編集委員会が掲載に値するとみなした論考。
3. 論考は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告、ショートレポートのいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。

5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として日本語あるいは英語を用いて作成するものとする。ただし、ショートレポートは日本語のみとする。
7. 論考は以下の作成要領（詳細は「テンプレート」参照）によって作成するものとする。ただし、招待論文、センター教員・共同研究論考、その他は（1）に準ずるが、費用・分量については、この限りではない。

(1) 研究論文、研究ノート、実践報告

〈日本語の場合〉

- ・ A4 縦置き・横書き、50 字×45 行（2 段組）で、原則 10 ページ以内（最大 12 ページ以内）。
- * フォントは、(日) MS 明朝、(英) Times New Roman、文字サイズは 10 ポイントとする。
- * 上記のページ数には、冒頭（1 ページ目）の日本語表題、日本語要旨（400 字程度）、日本語キーワード（5 つまで）、巻末の英語タイトル、英語要旨（200～300 語程度）、英語キーワード（5 つまで）、図表、注、文献を含む。
- * ただし、投稿者がわかる情報（氏名、所属、謝辞等）は削除またはマスキングして、PDF と Word ファイルで提出する（削除した場合は後で挿入するためのスペースは確保しておくこと）。
- * 超過分については、1 ページあたり 1 万円を著者の負担とする。

〈英語の場合〉

- ・ A4 縦置き・横書き、50 字×45 行（2 段組）設定で、原則 10 ページ以内（最大 12 ページ以内）。
- * フォントは Times New Roman、文字サイズは 10.5 ポイントとする。
- * 上記のページ数には、冒頭（1 ページ目）の英語表題、英語要旨（200～300 語程度）、英語キーワード（5 つまで）、巻末の日本語タイトル、日本語要旨（400 字程度）、日本語キーワード（5 つまで）、図表、注、文献を含む。
- * ただし、投稿者がわかる情報（氏名、所属、謝辞等）は削除またはマスキングして、PDF と Word ファイルで提出する（削除した場合は後で挿入するためのスペースは確保しておくこと）。
- * 超過分については、1 ページあたり 1 万円を著者の負担とする。

(2) ショートレポート

〈日本語のみ〉

- ・ A4 縦置き・横書き、50 字×45 行（2 段組）で、4 ページ以内。
- * フォントは、(日) MS 明朝、(英) Times New Roman、文字サイズは 10 ポイントとする。
- * 上記のページ数には、表題、要旨（日本語：300 字以内）、キーワード（日本語・英語、5 つまで）、図表、注、文献を含む。
- * ただし、投稿者がわかる情報（氏名、所属、謝辞等）は削除またはマスキングして、PDF と word ファイルで提出する（削除した場合は後で挿入するためのスペースは確保しておくこと）。

8. 原稿提出に際しては、『京都大学高等教育研究システム』（<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/journal/>）の「新規論考投稿」ページにある「論考情報入力」に必要事項を記入して原稿をアップロードする。また、同一ページにある、投稿論考が規程の条件を満たしているかどうかのリストにチェックを入れる。

〈用語〉

9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。ただし、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

〈注・文献〉

11. 注及び文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、注のあとにまとめてアルファベット順に記載する。文献の書き方については以下を参照のこと。

〈例〉

①論文

- ・ 田口真奈 (2007). 「高等教育における IT 利用実践研究の動向と課題—e ラーニングと遠隔教育を中心に—」『京都大学高等教育研究』13 号, 89-99.
- ・ Dall'Alba G., & Barnacle, R. (2007). *An ontological turn for higher education. Studies in Higher Education, 32(6), 679-691.*

②単行本

- ・田中毎実 (2003). 『臨床の人間形成論へーライフサイクルと相互形成ー』 勁草書房.
 - ・京都大学高等教育研究開発推進センター (編) (2003). 『大学教育学』 培風館.
 - ・松下佳代 (2010). 「〈新しい能力〉概念と教育—その背景と系譜—」 松下佳代 (編著) 『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー—』 ミネルヴァ書房, 1-42.
 - ・Hermans, H. J. M. (1995). From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer, & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy* (pp. 247-272). Washington, DC: American Psychological Association.
 - ・Hermans, H. J. M., & Kempen, H. J. G. (1993). *The dialogical self: Meaning as movement*. San Diego: Academic Press. ハーマンス, H.・ケンペン, H. (2006). 『対話的自己—デカルト／ジェームズ／ミードを超えて—』 (溝上慎一・水間玲子・森岡正芳 訳) 新曜社.
12. 文献と注を区別し、注は本文中の該当個所に、上付き文字で1、2……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 文献は、本文中では、著者名 (出版年)、あるいは (著者名, 出版年) として表示する。同一著者の同一年の文献については、a、b、c……をつける。

〈例〉

- ・田中 (1995a) が強調するように
- ・……という調査結果も提示されている (田中他, 1996)。

(その他)

14. 発行形態は、第27号 (2021年) よりオンラインジャーナル (電子ジャーナル) とする。また、稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。なお、抜刷については、希望があれば実費で作成する。
15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。
- ①原稿締切日：8月31日23時59分まで
- ②提出方法：『京都大学高等教育研究システム』 (<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/journal/>) にログインをして「新規論文投稿」よりオンラインで提出。なお、システムの利用には投稿者の登録が必要である。
- *論文の投稿後、まず自動返信メールが送られます。さらに、編集委員会が投稿を受け付けると、3日以内 (土日祝日含まず) に受領メールが送付されます。
- 受領メールが届かなかった場合は、投稿が完了していないということですので、必ず下記メールアドレス宛にお問い合わせください。
- 受領メールが届かなかったにもかかわらず問い合わせもなされなかった場合は、後日、投稿したというお申し出がなされても認められません。
16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育研究開発推進センターに属する。
17. 本規程の改正は編集委員会が行う。
- (附則) 本規程は、2021年発行の『京都大学高等教育研究』第27号から施行する。

■問い合わせ先

- ・『京都大学高等教育研究システム』に未登録の方
『京都大学高等教育研究』編集委員会にメールでお問い合わせください。
kiyou[at]highedu.kyoto-u.ac.jp ([at] を @ に置換してください。)
- *メール送信の際、件名に「京都大学高等教育研究についての問い合わせ」とお書きください。
- ・『京都大学高等教育研究システム』に登録済の方
『京都大学高等教育研究システム』の「編集委員会へお問い合わせ」から件名を選択の上、お送りください。

『京都大学高等教育研究』第27号 編集委員会

編集委員長	松 下 佳 代		
編集幹事	勝 間 理 沙		
編集委員	飯 吉 透	田 口 真 奈	
	酒 井 博 之	佐 藤 万 知	
	岡 本 雅 子	鈴 木 健 雄	
学外編集委員	畑 野 快	(大阪府立大学)	
	斎 藤 有 吾	(新潟大学)	
編集協力者	石 井 宏 子		

令和3年12月20日 印刷

非売品

令和3年12月21日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター
京都市左京区吉田二本松町 (〒606-8501)
TEL 075-753-3087
FAX 075-753-3045

印 刷 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL 075-441-3155

Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 27

CONTENTS

I Articles

Research Papers

- Development of Generic Competencies in the Regular Curriculum at Minerva University:
An Interview Survey with Minerva Students..... Kohei Tanaka & Kayo Matsushita
-

Educational Practice Reports

- A “Student-Based IR” Analysis of University Students’ Attitudes
and Behaviors toward Distance Learning under the COVID-19 Mitsuyuki Ichimura
Staff Development Program Aimed at the Formation
and Use of a Decentralized IR Model for Institutional Research Maya Iwano
Development of a Micro Teaching Rubric for a Pre-FD Course Shotaro Naganuma & Hanmo Jeong
-

Notes

- The Changes and Discussions of Pre-entrance Education in Administrative Documents Kohei Okada
Educational Significance of Adventure Education at Universities:
Trends and Prospects of Adventure Education Research
..... Mika Matsuo, Masamitsu Mochizuki, & Kayo Matsushita
Historical Development and Learning Process Models of Two PBLs Yoshiki Sugiyama
-

Short Report

- Converting Classroom-Based Training of Active Learning Style
Large-Enrollment Economics Course to the Online Format
—A Positive Effect of Video-Based Reflection on Course Management—
..... Tomohiko Sato, Mami Mitachi & Tetsutaro Okada
-

Articles by the Center Staff and Research Fellows

- What Are Competencies in Education? Their Essential Characteristics and the Triple Model ...Kayo Matsushita
The Development and Challenges of Competency-Based Education
in Japanese Universities: Toward a Post-Pandemic University EducationKayo Matsushita
Designing a student survey to capture student experience during the covid pandemic:
Overview of the student survey questions conducted in 2020
..... Katsuhiko Nakanishi, Lisa Katsuma & Machi Sato
-

II Documents